

第 6 章「標本分布」

1. 確率変数の関数の分布

定理 1 確率変数 X が密度関数 $f(x)$ をもつとする．関数 $h(x)$ が微分可能で狭義単調関数のとき， $Y = h(X)$ の密度関数 $g(y)$ は，

$$\begin{aligned} g(y) &= f(x) \left| \frac{dx}{dy} \right| \\ &= f(h^{-1}(y)) \left| \frac{dh^{-1}(y)}{dy} \right| \end{aligned}$$

(証明) $h(x)$ が単調減少の場合に証明する．

$$G(y) = P(Y \leq y) = P(h(X) \leq y) = P(X \geq h^{-1}(y)) = \int_{h^{-1}(y)}^{\infty} f(x) dx$$

あとは，最左辺と最右辺を y で微分すればよい．

例： $X = \log Y \sim N(\mu, \sigma^2)$ のとき， Y の密度関数（対数正規分布）を求めよ．

(解) $f(x) = \exp(-(x - \mu)^2 / (2\sigma^2)) / (\sqrt{2\pi} \sigma)$ ， $x = \log y$ ， $dx/dy = 1/y (> 0)$ であるから，

$$g(y) = f(\log y) \frac{1}{y} = \frac{1}{\sqrt{2\pi} \sigma} \frac{1}{y} \exp\left(-\frac{(\log y - \mu)^2}{2\sigma^2}\right)$$

問： 確率変数 X が分布関数 $F(x)$ ，密度関数 $f(x)$ をもつとする．このとき， $Y = F(X)$ は一様分布 $U[0, 1]$ に従うことを示せ．

・単調でない場合 確率変数 X が $N(0, 1)$ に従うとき， $Y = X^2$ の密度関数 $g(y)$ は，次のように求めることができる．非負の y に対して，

$$\begin{aligned} G(y) &= P(Y \leq y) = P(X^2 \leq y) = P(-\sqrt{y} \leq X \leq \sqrt{y}) \\ &= 2 P(0 \leq X \leq \sqrt{y}) = 2 \int_0^{\sqrt{y}} \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \exp(-x^2/2) dx \end{aligned}$$

最初と最後の表現を y で微分すれば，

$$g(y) = 2(\sqrt{y})' \frac{1}{\sqrt{2\pi} \exp(-y/2)} = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} y^{-1/2} e^{-y/2}$$

となる．これは，ガンマ分布 $G_A(1/2, 2)$ の密度関数 (= $\chi^2(1)$ の密度関数) である．

2. 確率変ベクトルの関数の分布

定理 2 n 次元確率ベクトル X が密度関数 $f(x)$ をもつとする．また，関数 $y = h(x)$ は n 次元ベクトル値関数で， x から y への変換のヤコビアン行列 $\partial x / \partial y$ が正則であるとする．このとき，確率ベクトル $Y = h(X)$ の密度関数 $g(y)$ は，

$$g(y) = f(x) \left| \det \left(\frac{\partial x}{\partial y} \right) \right|$$

で与えられる .

例： 2 つの確率変数 X_1, X_2 が互いに独立で，それぞれ一様分布 $U[0, 1]$ に従うとき，次の確率変数 Y_1, Y_2 は互いに独立に標準正規分布 $N(0, 1)$ に従う（この変換を Box-Muller 変換という）.

$$Y_1 = \sqrt{-2 \log X_1} \cos(2\pi X_2)$$

$$Y_2 = \sqrt{-2 \log X_1} \sin(2\pi X_2)$$

(解) X_1, X_2 について解くと，

$$X_1 = \exp\left(-\frac{Y_1^2 + Y_2^2}{2}\right),$$

$$X_2 = \frac{1}{2\pi} \tan^{-1} \frac{Y_2}{Y_1}$$

となる . また，ヤコビアンは，

$$\det\left(\frac{\partial \mathbf{x}}{\partial \mathbf{y}}\right) = \begin{vmatrix} -y_1 \exp\left(-\frac{y_1^2 + y_2^2}{2}\right) & -y_2 \exp\left(-\frac{y_1^2 + y_2^2}{2}\right) \\ \frac{1}{2\pi} \frac{-y_2}{y_1^2 + y_2^2} & \frac{1}{2\pi} \frac{y_1}{y_1^2 + y_2^2} \end{vmatrix} = -\frac{1}{2\pi} \exp\left(-\frac{y_1^2 + y_2^2}{2}\right) \neq 0$$

したがって，

$$g(y_1, y_2) = f(x_1, x_2) \left| \det\left(\frac{\partial \mathbf{x}}{\partial \mathbf{y}}\right) \right| = \frac{1}{2\pi} \exp\left(-\frac{y_1^2 + y_2^2}{2}\right) = \phi(y_1) \phi(y_2)$$

となる . ここで， $\phi(z)$ は $N(0, 1)$ の密度関数である .

例： X_1 と X_2 が互いに独立に $N(0, 1)$ に従うとき， X_1/X_2 はコーシー分布に従うことを示せ .

(解) 次の変数変換

$$Y_1 = X_1/X_2, \quad Y_2 = X_2 \quad \Leftrightarrow \quad X_1 = Y_1 Y_2, \quad X_2 = Y_2$$

を考えると，ヤコビアンは，

$$\det\left(\frac{\partial \mathbf{x}}{\partial \mathbf{y}}\right) = \begin{vmatrix} y_2 & y_1 \\ 0 & 1 \end{vmatrix} = y_2 \neq 0 \quad \text{with probability 1}$$

となるから，

$$g(y_1, y_2) = f(x_1, x_2) |y_2| = \frac{1}{2\pi} \exp\left(-\frac{(y_1^2 + 1)}{2} y_2^2\right) |y_2|$$

を得る . したがって， $g(y_1, y_2)$ を y_2 で積分して次の結果を得る .

$$\begin{aligned} g(y_1) &= \int_{-\infty}^{\infty} g(y_1, y_2) dy_2 = 2 \int_0^{\infty} g(y_1, y_2) dy_2 = \frac{1}{\pi} \int_0^{\infty} y_2 \exp\left(-\frac{(y_1^2 + 1)}{2} y_2^2\right) dy_2 \\ &= \pi \left[\frac{-1}{y_1^2 + 1} \exp\left(-\frac{(y_1^2 + 1)}{2} y_2^2\right) \right]_0^{\infty} = \frac{1}{\pi} \frac{1}{y_1^2 + 1} \end{aligned}$$

問 4 X_1 と X_2 が互いに独立にガンマ分布 $G_A(\alpha_1, \beta)$, $G_A(\alpha_2, \beta)$ に従うとき, $Y = X_1/(X_1 + X_2)$ はベータ分布 $B_E(\alpha_1, \alpha_2)$ に従うことを示せ.

3. 正規分布から誘導される分布

・ χ^2 分布

Z_1, Z_2, \dots, Z_n が互いに独立に $N(0, 1)$ に従うとき,

$$Y = Z_1^2 + Z_2^2 + \dots + Z_n^2$$

は, 自由度 n の χ^2 分布に従うといい, $Y \sim \chi^2(n)$ と書く. Y の密度関数を求めるには, まず, Z_1^2 の積率母関数は,

$$\begin{aligned} M_{Z_1^2}(t) &= E(\exp(tZ_1^2)) = \int_{-\infty}^{\infty} \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \exp\left(-\frac{1}{2}(1-2t)z^2\right) dz \\ &= (1-2t)^{-1/2} \end{aligned}$$

となる. したがって, Y の積率母関数は,

$$\begin{aligned} M_Y(t) &= E(\exp(tY)) = E(\exp(t(Z_1^2 + Z_2^2 + \dots + Z_n^2))) = E(\exp(tZ_1^2)) \cdots E(\exp(tZ_n^2)) \\ &= \prod_{j=1}^n E(\exp(tZ_j^2)) = (1-2t)^{-n/2} \end{aligned}$$

となるので, Y はガンマ分布 $G_A(n/2, 2)$ に従うから, Y の密度関数は

$$f(y) = \frac{1}{2\Gamma(n/2)} \left(\frac{y}{2}\right)^{n/2-1} \exp(-y/2)$$

$$E(Y) = n, \quad V(Y) = 2n$$

・ t 分布

X と Y は互いに独立に, それぞれ $N(0, 1)$, $\chi^2(n)$ に従うとき,

$$T = \frac{X}{\sqrt{Y/n}}$$

は, 自由度 n の t 分布に従うといい, $T \sim t(n)$ と書く. T の密度関数を求めるには, 変数変換

$$t = x/\sqrt{y/n}, \quad u = y \quad \Leftrightarrow \quad x = t\sqrt{u/n}, \quad y = u$$

を考える. 変換のヤコビアンは,

$$\det \begin{pmatrix} \partial(x, y) \\ \partial(t, u) \end{pmatrix} = \begin{vmatrix} \sqrt{u/n} & t/(2\sqrt{nu}) \\ 0 & 1 \end{vmatrix} = \sqrt{\frac{u}{n}} \neq 0 \quad \text{with probability 1}$$

となる. また,

$$f(x, y) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}} \exp(-x^2/2) \frac{1}{2\Gamma(n/2)} \left(\frac{y}{2}\right)^{n/2-1} \exp(-y/2)$$

であるから，

$$\begin{aligned} g(t, u) &= f(x, y) \sqrt{u/n} \\ &= \frac{1}{\sqrt{2\pi n} \Gamma(n/2) 2^{n/2}} u^{(n+1)/2-1} \exp\left(-\frac{u(t^2/n + 1)}{2}\right) \end{aligned}$$

となる．これを u に関して $[0, \infty)$ の範囲で積分すれば T の密度関数

$$g(t) = \frac{\Gamma((n+1)/2)}{\sqrt{\pi n} \Gamma(n/2)} (t^2/n + 1)^{-(n+1)/2}$$

が得られる．

(注 1) 自由度 1 の t 分布はコーシー分布である．

(注 2) $E(T) = E(X/\sqrt{Y/n}) = \sqrt{n} E(X) E(Y^{-1/2})$ ．ここで，

$$\begin{aligned} E(Y^k) &= \int_0^\infty \frac{1}{2^{n/2} \Gamma(n/2)} y^{n/2+k-1} e^{-y/2} dy \\ &= \frac{2^k \Gamma(n/2 + k)}{\Gamma(n/2)} \quad (n/2 + k > 0) \end{aligned}$$

であるから， $E(Y^k)$ は $n > -2k$ のとき存在する．したがって， $E(Y^{-1/2})$ は $n > 1$ のとき存在する．以上から， $E(T)$ は $n > 1$ のとき存在して，0 である．

(注 3) $V(T) = E(T^2) = E(X^2/(Y/n)) = n E(X^2) E(Y^{-1}) = n E(Y^{-1}) = n/(n-2)$ ($n > 2$)

・F 分布

X と Y は互いに独立に，それぞれ $\chi^2(m)$ ， $\chi^2(n)$ に従うとき，

$$Z = \frac{X/m}{Y/n}$$

は，自由度 (m, n) の F 分布に従うといい， $Z \sim F(m, n)$ と書く． F の密度関数を求めるには，変数変換

$$z = \frac{x/m}{y/n}, \quad w = y \quad \Leftrightarrow \quad x = \frac{mzw}{n}, \quad y = w$$

を考える．変換のヤコビアンは，

$$\det \begin{pmatrix} \partial(x, y) \\ \partial(z, w) \end{pmatrix} = \begin{vmatrix} mw/n & mz/n \\ 0 & 1 \end{vmatrix} = \frac{mw}{n} > 0 \quad \text{with probability 1}$$

となる．また，

$$f(x, y) = \frac{1}{2\Gamma(m/2)} \left(\frac{x}{2}\right)^{m/2-1} \exp(-x/2) \times \frac{1}{2\Gamma(n/2)} \left(\frac{y}{2}\right)^{n/2-1} \exp(-y/2)$$

であるから，

$$g(z, w) = f(x, y) \times \frac{mw}{n} = f(mzw/n, w) \times \frac{mw}{n}$$

を w に関して $[0, \infty)$ の範囲で積分することにより,

$$g(z) = \frac{\Gamma((m+n)/2)}{\Gamma(m/2)\Gamma(n/2)} \left(\frac{m}{n}\right)^{m/2} z^{m/2-1} \left(\frac{m}{n}z + 1\right)^{-(m+n)/2}$$

(注 1) $T \sim t(n)$ ならば, $T^2 \sim F(1, n)$ である.

(注 2) $E(Z) = (n/m)E(X)E(Y^{-1}) = nE(Y^{-1}) = n/(n-2)$ ($n > 2$) (t 分布に関する (注 2) を参照のこと)

(注 3) $E(Z^2) = (n/m)^2 E(X^2)E(Y^{-2}) = (n/m)^2 m(m+2)E(Y^{-2})$. ここで, $E(Y^{-2}) = 1/((n-2)(n-4))$ となるので (t 分布に関する (注 2) を参照のこと),

$$V(Z) = \frac{2n^2(m+n-2)}{m(n-2)^2(n-4)}$$

4. 標本平均と標本分散の独立性

以下, X_1, X_2, \dots, X_n は互いに独立に $N(\mu, \sigma^2)$ に従うものとする. そして,

$$\bar{X} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i, \quad S^2 = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2$$

を定義する. このとき, \bar{X} と S^2 は互いに独立であることを証明する. まず

$$Y_i = \frac{X_i - \mu}{\sigma} \quad (i = 1, \dots, n)$$

は, 互いに独立に $N(0, 1)$ に従う. 次に, $Y = (Y_1, \dots, Y_n)'$ から $Z = (Z_1, \dots, Z_n)'$ への変換 $Z = HY$ を考える. ここで,

$$H = \begin{pmatrix} 1/\sqrt{n} & 1/\sqrt{n} & \dots & \dots & \dots & 1/\sqrt{n} \\ 1/\sqrt{2} & -1/\sqrt{2} & 0 & \dots & \dots & 0 \\ 1/\sqrt{2 \cdot 3} & 1/\sqrt{2 \cdot 3} & -2/\sqrt{2 \cdot 3} & 0 & \dots & 0 \\ \dots & \dots & \dots & \dots & \dots & \dots \\ \dots & \dots & \dots & \dots & \dots & \dots \\ 1/\sqrt{(n-1) \cdot n} & \dots & \dots & \dots & 1/\sqrt{(n-1) \cdot n} & -(n-1)/\sqrt{(n-1) \cdot n} \end{pmatrix}$$

は直交行列であり (この変換を Helmert 変換という), 明らかに $Z \sim N(0, I_n)$ である. 特に,

$$Z_1 = \frac{1}{\sqrt{n}} \sum_{i=1}^n Y_i = \frac{\sqrt{n}(\bar{X} - \mu)}{\sigma}$$

また, Y と Z は互いに直交変換であるから,

$$Y'Y = Z'Z \quad \Leftrightarrow \quad Y_1^2 + \dots + Y_n^2 = Z_1^2 + \dots + Z_n^2$$

が成り立つ. ここで,

$$\begin{aligned} Y_1^2 + \dots + Y_n^2 &= \sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \mu)^2}{\sigma^2} = \sum_{i=1}^n \frac{((X_i - \bar{X}) + (\bar{X} - \mu))^2}{\sigma^2} \\ &= \sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \bar{X})^2}{\sigma^2} + \frac{n(\bar{X} - \mu)^2}{\sigma^2} = Z_1^2 + \frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} \end{aligned}$$

であることから,

$$Z_1^2 + \cdots + Z_n^2 = Z_1^2 + \frac{(n-1)S^2}{\sigma^2}$$

となるので, 結局,

$$\frac{(n-1)S^2}{\sigma^2} = Z_2^2 + \cdots + Z_n^2 \sim \chi^2(n-1) \quad (*)$$

が示される. したがって, \bar{X} は Z_1 にのみ依存し, 他方, S^2 は Z_2, \dots, Z_n にのみ依存するので, \bar{X} と S^2 は独立である.

(注 1) 上の (*) から, $E((n-1)S^2/\sigma^2) = n-1$, したがって, $E(S^2) = \sigma^2$ (不偏) を得る.

(注 2) 上の結果から次のことが成り立つ.

$$\frac{\sqrt{n}(\bar{X} - \mu)}{S} \sim t(n-1)$$